

# 研究計画書

## 1. 研究課題 生活習慣病予防のための出前授業におけるアンケート調査 (2)

### 2. 研究の概要

#### 2・1 目的

従来から行われてきた生活習慣病予防対策事業は、主に成人を対象としたものであるが、親のおやつとの与え方が成人後の過体重に影響することが示されている<sup>1</sup>など、学童期は生涯を通じた健康づくりの基礎となる重要な時期である。また、児童・生徒期に保健についての学習内容が多いほど、成長後、生活習慣病への予防意識が高く望ましい生活習慣が身についているという先行研究<sup>2</sup>もあり、早期からの予防教育は成人後の健康増進の基盤になると考えられる。

学童期における生活習慣病予防教育は、学習指導要領に基づき保健体育の一部として行われているが、本研究では、外部の専門家講師により、地域の健康状況に応じた特色ある出前授業を行う。本授業では地域の健康状態（児童の父母・祖父母等の健康状態や生活習慣）をデータヘルスの活用により可視化するとともに、学習を通じて児童の創造性が引き出されるよう教材を工夫し、児童が必要な知識を身につけ生涯にわたって健康な生活を送ることができるよう支援する取組みを行う。

また授業の実施により、児童の健康に対する意識・行動変容を促すとともに、児童が授業で学んだ知識を家族にも伝播させ、児童を起点に家族全体の生活習慣の改善につながる可能性を探ることを目的とする。

#### 2・2 方法

1) 静岡県が実施する平成 30 年度、令和元年度「生活習慣病予防のための出前授業」にて当該授業を実施し、授業終了後、静岡県内小学校（平成 30 年度：6 校、令和元年度 7 校）にて、下記 3 種類（令和元年度は①・②のみ）の無記名自記式アンケート調査を実施する。

- ①児童を対象としたアンケート調査（資料 1、資料 7）
- ②保護者を対象としたアンケート調査（資料 2、資料 3）
- ③教員を対象としたアンケート調査（資料 4）

#### 2) 調査内容

- ①児童を対象としたアンケート調査
  - ・印象に残った授業内容
  - ・授業後の生活で気を付けるようになったこと
  - ・授業後に家族の生活で変わったこと
  - ・基本属性（性別）
- ②保護者を対象としたアンケート調査
  - ・授業後の子どもの様子
  - ・家族で取り組んでいる生活習慣、授業後の変化
  - ・授業後に取り組みを始めた理由
  - ・静岡県作成のデータヘルスに関するパンフレットの感想や意見
  - ・授業の感想や意見
  - ・基本属性（性別、年代、続柄）
  - ・授業の認知
  - ・授業後の生活で子どもが気を付けるようになったこと
  - ・授業後の生活で保護者が気を付けるようになったこと
  - ・授業後の生活で保護者が気を付けるようになった理由
- ③教員を対象としたアンケート調査（平成 30 年度のみ）
  - ・今後の授業への活用可能性について
  - ・授業教材の有用性
  - ・授業後の児童の変化
  - ・授業後の教員自身の変化
  - ・授業の感想や意見
  - ・基本属性（性別、年代、教員勤続年数）

平成 30 年度のみ

令和元年度より

<sup>1</sup> 佐田みずき,山岸良匡,西連地利己,他. 児童期におけるおやつとの与え方が, 22 歳時の体格に与える影響:IBACHIL 研究. 日本循環器病予防学会誌 2017; 52: 3

<sup>2</sup> 高尾憲司,藤岡秀樹. 大学生の疾病予防に対する意識, 行動と児童・生徒期の保健学習との関連 - 生活習慣病の予防に着目して. 小児保健研究 2014; 73: 6

### 3) 分析方法

各アンケート調査の結果をもとに、回答情報を分析する。  
基本属性を軸としたクロス集計を行うとともに、自由回答部分についても定性的な分析を行う。

実施・収集期間	部局長承認後3年間	研究期間	部局長承認後3年間
---------	-----------	------	-----------

## 2・3 対象及び資料等

### 1) 対象

#### ○児童を対象としたアンケート調査

・「生活習慣病予防のための出前授業」を実施した静岡県内小学校 6~7 校の小学 6 年生の児童全員（平成 30 年度：約 280 名、令和元年度：約 450 名・満 11~12 歳・男女・除外基準なし）を対象とする。

・調査票は、一括して東京大学から各学校に送付した後、当該児童のクラス担任を通じて配布・回収する。

・調査の実施時期は、授業実施の 2~3 か月後を目途に、平成 31 年、令和 2 年 2 月頃。

#### ○保護者を対象としたアンケート調査

・「生活習慣病予防のための出前授業」を実施した静岡県内小学校 6~7 校の小学 6 年生の児童全員（平成 30 年度：約 280 名、令和元年度：約 450 名）の保護者を対象とする。

・調査票は、一括して学校に送付した後、当該児童のクラス担任を通じて配布・回収する。

・調査の実施時期は、授業終了後を目途に、平成 30 年 11~12 月、令和元年 11 月~令和 2 年 1 月。

#### ○教員を対象としたアンケート調査（平成 30 年度のみ）

・平成 30 年度「生活習慣病予防のための出前授業」を実施した静岡県内小学校 6 校の小学 6 年生のクラス担任を対象とする。

・調査票は、一括して学校に送付し、学校ごとに回収を行う。

・調査の実施時期は、授業終了後を目途に、平成 30 年 11 月~12 月。

### 2) 資料

調査票の回答

## 2・4 研究参加者の実体験

### 1) 児童を対象としたアンケート調査

・児童は学級担任を通じてアンケート票および回収用封筒を受領する。（資料 1）

・学級担任は、アンケート票および回収用封筒配布時に、アンケート調査の注意事項を児童に読み上げる。

（資料 7）

・回答は児童の自宅にて行う。

・児童はアンケート票の説明を読み、回答してもよい場合は記入し、回収用封筒に入れた状態で学級担任に提出する。

・回答に要する時間は約 10 分程度。

・学級担任は学校毎にとりまとめ、東京大学に返送する。

### 2) 保護者を対象としたアンケート調査

・子どもが学級担任から配布された依頼状・アンケート票・回収用封筒を家庭に持ち帰る。（資料 2、資料 3）

・回答は保護者の自宅にて行う。

・保護者は依頼状の説明を読み、回答してもよい場合は記入し、回収用封筒に入れた状態で子どもを通じて学級担任に提出する。

・回答に要する時間は約 10 分程度。

・学級担任は学校毎にとりまとめ、東京大学に返送する。

### 3) 教員（学級担任）を対象としたアンケート調査（平成 30 年度のみ）

・東京大学から学校を通じてアンケート票および回収用封筒を受領する。（資料 4）

・教員はアンケート票の説明を読み、回答してもよい場合は記入し、回収用封筒に入れた状態で提出する。

・回答に要する時間は約 10 分程度。

・教員は学校ごとにとりまとめ、東京大学に返送する。

以上、研究期間中参加者 1 名につき最大で 1 回の調査に参加する。

3. 研究を実施する施設とその役割

1) 該当する施設名とその役割 (別途添付可)

- ①インフォームド・コンセントを受ける施設; 「生活習慣病予防のための出前授業」を実施する小学校
- ②資料等を収集する施設; 東京大学未来ビジョン研究センター データヘルス研究ユニット  
(伊藤国際学術研究センター 4F共同研究室)
- ③資料等を匿名化する施設; 無記名のアンケートであるため匿名化の作業はない
- ④資料等を解析する施設; 東京大学未来ビジョン研究センター データヘルス研究ユニット  
(伊藤国際学術研究センター 4F共同研究室)
- ⑤資料等を保存する施設; 東京大学未来ビジョン研究センター データヘルス研究ユニット  
(伊藤国際学術研究センター 4F共同研究室)

2) (該当する場合) 学外施設での対応とその状況 (別途添付可)

各学校長から調査の実施の承諾を得た上で実施する。(資料6)

アンケート調査に関する各学校からの問い合わせ等は、静岡県健康福祉部医療健康局健康増進課にて対応する。

4. 研究における倫理的配慮

4・1 インフォームド・コンセント

1) 実施方法

アンケート票に回答が任意であることを記載し、回答をもって研究参加の同意とする。

- 2) 特に倫理的な配慮を必要とする研究参加者への配慮の有無と対応策 → あり (内容を記入) なし  
未成年も含むため、所属学校の協力を得て事前にアンケート調査の内容、記載方法の適切性について確認、修正する。児童の参加に関しては、自宅で回答させ児童の保護者からも同意を得る。

4・2 個人情報保護

- 1) 本学における個人情報の有無とその種類 → あり なし

無記名方式で調査を実施する。回答者属性に関する調査項目に、氏名・生年月日等特定の個人を識別できる情報は無い。

- 2) 個人情報保護の方法

該当しない

- 3) 研究期間終了後: 個人情報の保存/廃棄方法

該当しない

4・3 資料等の取扱

アンケート票の回答は、データ化した後に使用し、研究終了後5年間保管する。

原本は鍵のかかるキャビネットに研究終了後、再検証を要しないと考える時期まで保管し、その後シュレッダーで廃棄する。

- 当該研究課題の範囲外で使用する可能性; なし  
当該研究の研究従事者以外が使用する可能性; なし

5. 安全の確保

- 1) 研究によって研究参加者に生じうる危険や不快等

・児童、保護者には学級担任よりアンケート票が配布されるため、回答が任意であったとしても、回答することが義務だと受け取られるリスクがある。また、学級担任より、アンケート票への回答を強要されるリスクがある。

- 2) 危険や不快等への対応策

・児童に対しては、調査票配布時に行う学級担任からの説明および依頼文にて、調査への参加は任意である、回答がなくても不利益がないことを説明する。

・保護者に対しては、依頼文にて、調査への参加は任意である、回答がなくても不利益がないことを説明する。

・調査に参加する学校に対しては、アンケート票の回答は任意であることを説明し、児童、保護者にも回答を強要しないよう伝える。

6. 備考

- ・研究参加者への謝礼の有無; なし あり
- ・研究経費の内訳; データヘルス研究ユニット寄附金
- ・企業等からの資金・装置等の供与の有無; なし あり